

石狩水道ビジョンロードマップ評価表に基づく評価

1. 安全で安定した水の供給確保

参考資料-3

番号	項目	取り組むべき方策	ロードマップ														取り組み目標	取り組み状況【R7】	担当	取組状況評価		実施状況評価				評価合計 (/10点)	評価結果
			R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	区分	評点 (/5点)	区分	評点 (/5点)				取組みの評価(方策の方向性どおり達成できているか)							
①	水源 頼 か ら 給 水 栓 ま で 安 定 供 給 の 継 続 																										

2. 水の供給体制の持続

番号	項目	取り組むべき方策	ロードマップ										取り組み目標	取り組み状況	担当	取組状況評価		実施状況評価				評価合計 (/10点)	評価結果				
			R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16				区分	評点 (/5点)	区分	評点 (/5点)	取組みの評価(方策の方向性どおり達成できているか)							
①	基 づ 体 的 な 計 画 面 運 に 営 の 継 続	1)見直し年次を合わせた「経営戦略」と「更新計画」による健全な事業運営の継続 新規	計画に基づく事業運営(継続)										a.事業の確実な遂行のためロードマップ評価の実施 b.ビジョン内容の予算への反映 【R7】 ・ロードマップ評価の実施 ・ビジョン内容についての予算化の検討	・本評価表により評価を行い、事業の確実な遂行に努めた ・水道施設更新事業について、更新計画に基づき、予算への反映を行った、その他の取り組みについては、R9年度以降の予算化に向け継続して検討中	⑩水道ビジョンPT	実施中	3	一定	3	・年度当初から取り組み目標を設定し、PTの指示のもと、定期的にWG及び担当で検討を進め、水道ビジョンの確実な遂行に努めた ・今後もPTやWGの体制を維持するとともに、予算化についても着実に進めて行くことが課題 ・本評価を反映し、着実に進める必要がある	6	C					
②	漏 と 水 有 り 収 率 向 上 の 上 軽 減	2)「経営戦略」と「更新計画」を4年ごとにローリングし「石狩水道ビジョン」を時点修正 新規	計画見直し、ビジョンの時点修正(中期)										a.ロードマップ評価による進捗管理 b.事業の進捗や財政状況の把握 c.料金改定についての検討 【R7】 ・水道ビジョンの進捗管理 ・事業の進捗管理 ・経営の見通しのシミュレーション	・水道ビジョンの定期的な進捗管理を実施した ・予算の確実な執行により、更新事業を円滑に進めた、財政状況に影響する有収水量と無効水量のトレンドの把握に努めた ・R6年度までの決算とR7年度予算により、経営の見通しについてシミュレーションを行った	⑩水道ビジョンPT	ほぼ達成	4	一定	3	・定期的にPTによる進捗確認を実施し、適宜、軌道修正を図りながら進めた ・更新計画に基づき、事業を円滑に進めることができた ・地区毎の配水量と有収水量のモニタリングにより、水需要トレンドの把握に努め、無効水量(漏水量)の洗い出しを行った ・現時点での経営見通しを算出し、料金改定検討の基礎を整えた	7	B					
③	発 展 的 広 域 化 の 推 進	1)更新年数を迎えた水道管の計画に基づいた更新 新規	花川北地区の更新完了(令和12年度完了)										a.更新事業の進捗管理(特に花川北地区) b.更新事業を促進する方策の検討 【R7】 ・更新事業の進捗管理 ・促進する方策の検討	・工事延長4km以上を施工し、適正に進捗管理を実施した ・花川北地区において小規模簡易DBの試験施工を実施した	工務	ほぼ達成	4	ほぼ十分	4	・花川北地区の更新率は57%(R6d48%)R12d完了に向けて計画通りに実施 ・小規模簡易DBの試験施工を実施し、更新促進の手法検討が前進 ・小規模簡易DBについては、規模の拡大が課題	8	B					
			計画の見直し、更新事業促進方策の検討																								
④	漏 と 水 有 り 収 率 向 上 の 上 軽 減	2)夜間流量の監視と漏水調査の実施 新規	夜間流量の監視(継続)										a.夜間流量の監視による漏水疑いのある地区の特定 b.漏水特定地区における調査の実施 c.漏水調査計画の作成など 【R7】 ・厚田・浜益地区の夜間流量監視の徹底 ・漏水箇所特定のための調査計画を作成 ・漏水が疑われる地区での漏水調査を実施	・浜益地区において、直営による夜間流量調査を実施した。(春季のみ実施) ・夜間流量が増加した厚田区望来地区及び豊富地区において、直営による夜間漏水調査を実施した ・夜間流量が増加傾向で漏水の発生が疑われる花川北配水場給水区域において、外注による漏水調査を実施した	給配水 浄水	実施中	3	一定	3	・今後は、特に有収率が低い浜益地区と夜間流量が増加傾向の花川北配水場給水区域の効果的な漏水調査の方法を検討する必要あり	6	C					
			漏水調査の実施(継続)																								
⑤	効 率 需 的 要 な の 施 設 向 配 を 置 踏 の ま 検 え 討 た	3)更新及び漏水修繕による有収率向上 持続	更新工事による有収率向上(中期)										a.毎年度、漏水調査により判明した漏水箇所の計画的修繕 b.毎年度、腐食が疑われる箇所の計画的修繕 c.石狩、厚田、浜益、全体で令和5年度比からの向上を目指す 【R7】 ・漏水箇所の計画的修繕 ・予防保全による計画的修繕	・漏水調査結果を基に修繕を実施をしたが、事後保全が多く、計画的な修繕は検討中 ・有収率は横ばい～減少傾向	給配水 工務	一部実施中	2	一定・課題	2	・浜益地区で予定していた夜間漏水調査が熊の異常出沒により実施できなかったため、計画的な予防保全に至らなかった ・次年度は、特に浜益地区と花川北地区の有収水量の向上が課題	4	D					
			漏水修繕による有収率向上(中期)																								
⑥	効 率 需 的 要 な の 施 設 向 配 を 置 踏 の ま 検 え 討 た	1)近隣事業体との「業務の共同化」について検討 新規	北海道水道広域連携プランを参考に広域化の検討(継続・長期)										a.北海道水道広域連携プランから、実現可能性について検討 b.DXなどの連携について検討 【R7】 ・広域連携の可能性について検討 ・DX分野での連携について検討	・現状ではソフト・ハードともに他事業体との連携は不可と判断。令和12年度までに、官民連携の可能性について検討を行うこととする ・「持続的な水道事業の実現に向けた合同研修会」に参加し、他事業体のDX導入状況について意見交換を行った	⑩水道ビジョンPT ③水道DX化WG	一部実施中	2	一定・課題	2	・広域は可否判断、DXは情報収集まで進捗、次年度は具体策整理が課題 ・広域連携:ソフト・ハード連携は不可と整理し、官民連携検討へ方針転換を設定 ・DX連携:合同研修会でDX導入状況を把握し、連携検討の基盤を形成し前進した	4	D					
			計画の見直し、更新事業促進方策の検討																								
⑦	効 率 需 的 要 な の 施 設 向 配 を 置 踏 の ま 検 え 討 た	2)広域連携に関する会議などの参加や先進事例の研究 持続	毎年度の広域化に係る研修等の把握(継続)										a.年度ごとの研修、会議計画の策定 b.研修、会議内容について実現性の検討 【R7】 ・広域化関連の会議への積極的参加 ・内容について内部共有	・「持続的な水道事業の実現に向けた合同研修会」に参加し、石狩市から給排水装置工事のweb申請の取り組み状況について、他自治体へ照会を行った ・今後、札幌市が給排水装置のweb申請に取り組むことを確認できた	⑩水道ビジョンPT ②研修プログラムWG	一部実施中	2	一定・課題	2	・年度計画の策定は未記載で、体系化が今後の課題 ・合同研修会に参加し、情報収集と連携の糸口を確保 ・web申請の取組を他自治体へ照会し、方向性を検証 ・札幌市の着手予定を把握、庁内共有の具体化が必要	4	D					
			広域化の実現可能性について検討(継続)																								
⑧	効 率 需 的 要 な の 施 設 向 配 を 置 踏 の ま 検 え 討 た	1)安全で信頼される水道水の提供の継続による水道普及率の維持 持続	計画的に洗管作業を実施(継続)										a.計画的な配水池清掃・洗管作業の実施 b.水質・漏水事故の予防と対応 c.安全で信頼される水道水のPR 【R7】 ・配水池の清掃と洗管作業の実施 ・漏水事故の予防保全 ・安全で信頼される水道水のPR	・花川北配水場配水池のロボット清掃を実施した ・生振、新港南地区の洗管作業を実施した ・水質試験結果及び水質基準の説明をHPで公表した	給配水 浄水 ④水道広報WG	ほぼ達成	4	一定	3	・花川北でロボット清掃、生振・新港南で洗管を実施し計画的な管理を推進し、水質事故予防に寄与、漏水事故の予防保全が今後の課題 ・水質試験結果と基準説明をHP公開し、安全で信頼できる水道水を周知した ・維持管理と情報公開を着実に実施し、水質リスク低減と信頼向上に繋げた	7	B					
			水質・漏水事故への迅速な対応(継続)																								
			信頼される水道水提供の取り組み(継続)																								
⑨	効 率 需 的 要 な の 施 設 向 配 を 置 踏 の ま 検 え 討 た	2)人口減少地域における水質など維持管理の持続 新規	地区別給水量の把握(継続)										a.人口減少地域における水質の管理 b.維持管理しやすい施設への更新や修繕の検討及び実施 【R7】 ・維持管理しやすい施設への更新に向けて、地区別給水量の把握	・各配水エリアごとの水需要を把握し、月ごとの変化を把握することに努めた	工務 浄水	実施中	3	一定	3	・配水エリア別需要を把握し、水質管理の基礎データを整理 ・月別変動を整理し、維持管理しやすい更新検討の前提を確保 ・把握は進展したが、更新・修繕の具体化の深掘りが課題	6	C					
			末端水質の把握と施設の維持管理の徹底(継続)																								
			小規模施設の更新・修繕等を実施(継続)																								
⑩	効 率 需 的 要 な の 施 設 向 配 を 置 踏 の ま 検 え 討 た	3)多様な手法による水供給の可能性についての検討 持続	水需要の動向の分析(継続)										a.大型需要者の立地や新たな宅地造成など関係部署と連携した水需要動向の把握 b.各種計画見直しに伴う水需要予測の実施 【R7】 ・関係部署との情報共有の体制を整備 ・水需要の把握(特に石狩西部受水区域)	・企業連携推進課や建設総務課など関係課と立地情報や管網の整備状況、水供給の課題等について共有した ・各配水エリアごとの水需要について把握し、有収水量と配水量など毎月の変化等把握に努めた	⑩水道ビジョンPT	実施中	3	一定	3	・関係課と立地・管網・供給課題を共有し、連携体制整備が前進できた ・配水エリア別に有収水量・配水量の月変動を整理し、石狩西部受水区域の実績把握ができた ・需要データは蓄積したが、計画見直しに伴う需要予測は未実施で課題 ・情報共有と需要把握は達成、予測手法の具体化と今後の対応策が課題	6	C					
			計画見直しに伴う水需要予測(中期)																								
⑪	効 率 需 的 要 な の 施 設 向 配 を 置 踏 の ま 検 え 討 た	2)ダウンサイジングや施設の統廃合の検討 新規	ダウンサイジングによる事業の実施(継続)										a.ダウンサイジングが可能な施設の事業実施によるコスト削減 b.施設更新時に施設の統廃合を検討 【R7】 ・将来不要となる管を見定め、更新をしないなどのダウンサイジングを実施 ・統廃合施設の選定を実施	・H23ダウンサイジング計画を基に、更なるコスト削減のため将来不要管の更新中止を実施した ・濃屋浄水場、実田浄水場を選定し、多様な給水方式を含めた案を検討中	工務 浄水	実施中	3	一定	3	・H23計画を基に将来不要管の更新を中止し、コスト削減を達成 ・濃屋・実田浄水場を統廃合候補に選定し、多様な給水方式を含め検討 ・更新抑制は実施済、統廃合は案検討段階で、効果の算定と工程化が課題	6	C					
			施設統廃合の検討(中期)																								
⑫	効 率 需 的 要 な の 施 設 向 配 を 置 踏 の ま 検 え 討 た	3)多様な手法による水供給の可能性についての検討 持続	新技術や新たな手法による水供給の可能性の検討(継続)										a.新技術や新たな手法による様々な水供給について調査・研究し、実現の可能性について検討する b.主に濃屋や実田地区における水供給手法の検討 【R7】 ・水供給手法の検討	・国において検討されている、水道分散型システムなど個別給水方式を含め多様な方式を検討中	工務 浄水	検討中	1	一定・課題	2	・多様な給水方式を整理し、実現性検討を開始したが具体化は途上 ・濃屋・実田で個別給水方式も比較検討中で、評価の設定が課題 ・検討は着手段階のため、概算費用・運用体制・工程の明確化が次年度課題	3	D					
			人口減少地区での多様な手法による水供給の検討(中期)																								

3. 人材育成と組織力強化

番号	項目	取り組むべき方策	ロードマップ														取り組み目標	取り組み状況	担当	取組状況評価		実施状況評価				評価合計 (/10点)	評点結果
			R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	区分	評点	区分	評点				取組みの評価(方策の方向性どおり達成できているか)							
①	持続可能な技術基盤の確保と民間活用 の推進	1) 民間委託の拡大を含む水道に携わる人員の確保	民間委託拡大の検討(中期)													a.管理・更新一体マネジメント(レベル3、5)の検討 b.直営で行っている業務の委託化の検討及び実施【R7】 ・ウォーターPPPの実現可能性について調査研究	・ウォーターエージェンシーの協力のもとウォーターPPPの事例紹介を実施し、現状についての理解を深めた ・市役所内部(検針業務、給水検定業務、水道・下水道施設運転管理もしくは外部との連携の可能性について検討を進めた	①水道ビジョンPT	一部実施中	2	一定・課題	2	・WAの協力で事例共有を行い、W-PPPの理解深化と論点整理が進んだ ・検針・給水検定・施設運転管理を対象に、委託化/連携の検討を開始 ・実現可能性の調査は着手段階で、費用対効果と役割分担の具体化が今後の課題	4	D		
		2) 知識や技術力強化のための人材育成・研修計画の策定	研修計画の策定(短期) 計画の策定													a.日水協や札幌市主催の外部研修への参加計画を策定 b.委託先や再任用職員を活用したOJTによる人材育成計画を検討【R7】 ・研修計画の策定	・研修計画の策定には至らなかったが、外部研修に参加実績) 水道事務・技術研修会(日水協北海道地方支部) 日本水道協会全国会議 水道技術研修会(札幌市) 地方公営企業財務会計講習会(地方財務協会) 社会保険事務講習会(北海道社会保険協会)	②研修プログラム	一部実施中	2	一定・課題	2	・研修計画は未策定だが、日水協等の外部研修参加で知見を補強 ・事務・技術、財務会計等へ幅広く参加し、実務力向上に寄与した ・委託先・再任用を活用したOJT計画は未検討で、制度設計が課題 ・参加は進んだ一方、計画化と育成の仕組みづくりが次の改善点となる	4	D		
		3) 技術継承のため水道を熟知した再任用職員の活用と維持管理マニュアルの整備	再任用職員による技術継承の推進(短期) 維持管理マニュアルの整備(短期)													a.OJTなどによる再任用職員の活用方法の検討 b.各作業別のマニュアル整備 c.DX化の活用などの検討【R7】 ・必要となるマニュアルの検討 ・業務効率化の新たなDX活用を検討	・業務経験の長い再任用職員を採用し、技術の継承を図った ・必要マニュアル、新たなDX活用については、意見を募集するも、業務の具体的な検討に至らなかった	②研修プログラム ③水道DX化WG ⑤業務効率化WG	一部実施中	2	一定・課題	2	・再任用職員を採用しOJTで技術継承を開始、活用方法の整理が課題 ・マニュアル必要事項の意見募集は実施、具体化・整備は未着手で優先付けが課題 ・新たなDX活用は具体検討に至らず、業務整理と導入方針の策定が課題として残る	4	D		
		4) 研修への積極的な参加の継続や他水道事業体職員との情報交換	研修計画の実践(継続) 他水道事業体との情報交換(継続)													a.策定した研修計画に基づく研修への参加と研修内容の活用 b.近隣水道事業体との広域連携推進のための情報交換【R7】 ・研修計画の策定 ・広域連携についての意見交換	・研修計画の策定には至らなかったが、積極的に外部研修に参加した 災害時相互応援訓練(日水協北海道地方支部) 水道事業体合同技術研修会(さっぽろ水道サービス協会) 持続可能な水道事業の実現に向けた合同研究会(さっぽろ水道サービス協会)	①水道ビジョンPT ②研修プログラム	一部実施中	2	一定・課題	2	・研修計画は未策定だが外部研修に参加し知見蓄積を進めた、業務活用に向けた課題を明確化した ・災害時相互応援訓練等へ参加し、対応力向上に繋げた研修内容の整理と共有は今後の課題 ・合同技術研修会・合同研究会で近隣事業体と意見交換を実施し広域連携推進の下地を作った ・計画策定の遅れが残るため、成果の業務反映と連携継続が必要体制整備を進めたい	4	D		
		5) 上下水道一体化への取り組み 新規	上下水道一体での耐震化(長期) 上下水道一体での事業効率化等の検討(長期)													a.上下水道耐震化計画に基づいた事業の推進 b.上下水道一体で業務の効率化、組織力強化、サービス向上について検討【R7】 ・上下水道耐震化計画に基づく事業検討 ・上下水道一体での業務効率化等の検討	・交付金を活用した厚田地区導水管更新事業を国のR7年度補正予算により実施 ・給水装置工事、排水設備工事のWeb申請の検討を進めた	①水道ビジョンPT ③水道DX化WG ⑤業務効率化WG 工務	実施中	3	一定	3	・交付金を活用し厚田地区導水管更新を実施し耐震化を前進した ・給排水Web申請検討を進め、上下水道一体の効率化・サービス向上に向け取り組んだ	6	C		
②	水道事業のDX化の推進	1) 組織体制の維持・強化やコスト縮減に向けた効果的な新技術・DX化の検討 新規	新技術やDX化による業務効率化を検討(中期) 実現可能なものから実施												a.DX化による業務の効率化を検討【R7】 ・DX化が可能な業務の検討	・水道料金口座振替のWeb申込を実施 ・水道の利用開始、休止等のWeb申込をリニューアルした	③水道DX化WG	実施中	3	一定	3	・口座振替Web申込を導入し、窓口・事務処理の省力化を推進した ・利用開始・休止のWeb申込を刷新し、手続のオンライン化と利便性を向上 ・DX対象業務の実装が進み、対面依存の低減に一定の成果を確認できた ・マッピングシステム、水道施設台帳のデジタル化、給排水Web申請、新たなDX推進については、次年度の継続課題	6	C			
		2) 水道メーター指針の遠隔検針(スマートメーター)導入の検討 新規	スマートメーター導入の検討(短期) 目標設定・ニーズ評価 →テストエリアの設定→トライアルの実施												a.目標設定やニーズ評価の実施 b.テストエリアの設定とトライアルの実施【R7】 ・スマートメータ導入事例の調査	・導入方式(メーター形式、データ管理方法)について理解を深めた	③水道DX化WG	検討中	1	一定・課題	2	・導入方式を整理し、理解を深めたが、テストエリア設定やトライアルは未着手で、次段階の課題となる ・通常のメーターより高価で、通信料もかかるため、費用対効果を検証し、慎重な検討が必要	3	D			
		3) 水道情報一括管理システム導入の検討 新規	マッピングシステム、水道施設台帳システム導入検討(短期) 各種システム導入の検討(短期)												a.上下水道マッピングシステム導入の検討 b.水道施設台帳のシステム化検討 c.その他システム化についての検討【R7】 ・マッピングシステム導入の検討	・現行GISでのデータ整理と機能強化を進め、マッピング、水道施設台帳システムへの移行が可能となるよう検討する	③水道DX化WG	実施中	3	一定・課題	2	・現行GIS併用の限界を整理し、機能強化の方向性を明確化できた ・紙・PDF等の分散台帳を把握し、統合デジタル化の課題を抽出した ・要件整理が今後の課題 ・その他システム化の対象選定が未実施で、優先順位付けが必要でロードマップ作成を要する	5	C			
		4) 職員のデジタルスキルの強化 新規	職員のデジタルスキル向上のための研修の実施(短期) DXを推進する担当の設置(短期)												a.デジタル人材の育成・確保のための研修プログラムの検討・実施 b.水道のDXを推進する担当者を設置【R7】 ・必要なデジタルスキルの検討	・スキルの検討には至らなかったが、DX推進課と連携した研修に参加した 実績) ArcGISPro::基本操作 研修 ArcGISPro::データ作成・管理 研修	②研修プログラム ③水道DX化WG ⑤業務効率化WG	一部実施中	2	一定・課題	2	・必要スキル整理は未了だが、DX推進課連携研修で基礎力を向上し人材育成の足掛かりを得た ・DX担当者設置は未着手だが、連携による推進体制の検討を開始する必要性を共有した	4	D			

4. 災害に強いライフラインの確保

番号		項目	取り組むべき方策	ロードマップ												取り組み目標	取り組み状況	担当	取組状況評価		実施状況評価				評価合計 (/10点)	評点結果
				R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16				区分	評点	区分	評点	取組みの評価(方策の方向性どおり達成できているか)					
①	の地震 震保など 災害に強い ライフライン	強韌	新規	1) 基幹管路の耐震性確保	計画に基づく耐震化の継続(継続)									a.計画に基づき、更新の進捗や重要度、経営状況を踏まえ基幹管路の耐震化を実施 b.R11年までに基幹管路の耐震化率33%を目指す(R6d→29%) 【R7】 ・耐震化工事の実施	・更新計画に基づき導水管の耐震化工事を実施した ・基幹管路耐震化率(R7→30%)	工務	達成	5	十分	5	・計画に基づき導水管耐震化を実施し、基幹機能強化を着実に実施した ・耐震化率は29%→30%へ上昇し、R11年33%目標へ順調に推移	10	A			
				2) 地震に強い管路システムの構築	更新工事による耐震化の継続(継続)									a.計画に基づき、更新の進捗や重要度、経営状況を踏まえ更新及び耐震化を継続 b.R11年までに管路全体の耐震化率19%を目指す(R6d→16%) 【R7】 ・更新及び耐震化工事の実施	・更新計画に基づき更新及び耐震化工事を実施した ・管路全体の耐震化率(R7→17%)	工務	達成	5	ほぼ十分	4	更新計画に基づき更新・耐震化を実施し、重要度と経営を踏まえ継続推進 ・耐震化率は16%→17%へ改善し、R11年19%目標に向け順調	9	A			
				3) 断水リスク軽減の管網整備	漏水事故の影響を考慮した管網の検討(中期)									a.厚田・浜益地区の漏水事故の影響を考慮した管網・バルブ設置の検討 【R7】 ・漏水修繕の際に、効果的なバルブ設置を実施 ・不要な管路の廃止を検討	・漏水修理時に今後の維持管理を考慮した箇所にバルブを設置 ・今年度の検討においては、不要な管路はなし	給配水	ほぼ達成	4	一定	3	・引き続き漏水修理時に維持管理に必要と考えられる箇所にバルブを設置する ・今後、漏水事故の影響を考慮した管網の検討を行う必要がある	7	B			
②	応急給水拠点と 応急給水体制の整備	強韌	新規	1) 緊急貯水槽など総合的な応急給水拠点の整備	給水車や資機材運搬車の増強、緊急貯水槽設置の検討(中期)									a.給水車、資機材運搬車の増強検討、緊急貯水槽設置の検討 b.応急給水拠点の選定及び整備の検討 【R7】 ・応急給水拠点の選定	・応急給水拠点の選定を行い、実践的な応急給水体制の強化を図った	①災害対策WG	実施中	3	一定	3	・給水車等の増強・貯水槽設置は検討未着手で課題、次年度に費用・配置計画の整理が必要 ・応急給水拠点を選定し、災害時運用検討へ前進した ・今後は給水拠点や給水基地における整備や資機材等の増強について検討が必要	6	C			
				2) 燃料や資機材等の調達・流通手段の確保	災害時の燃料・資機材調達の確保(短期)									a.災害時の燃料や資機材等の調達手段について、再チェックし、確実な確保に努める 【R7】 ・災害協定を確認し燃料調達手段を確保	・災害時に利用可能なガソリンスタンドの確認を行った	①災害対策WG	一部実施中	2	不十分	1	・ガソリンスタンドだけでなく、災害協定と資機材調達先など総合的な調達体制の確認や整理が必要	3	D			
				3) 各災害用マニュアルの見直し	各災害用マニュアルの点検とリニューアル(短期)									a.災害用マニュアルの見直し作業 b.災害対策マニュアルのリニューアル 【R7】 ・災害用マニュアルの見直しとリニューアル	・応急給水計画実施・作成要領を見直し、給水拠点の設定、必要用水量等を整理した、これにより実践的な応急給水の実施に向けて、次年度、机上訓練を実施する ・各ケーススタディの改定は次年度に継続して実施する	①災害対策WG	実施中	3	一定	3	・応急給水計画の要領を見直し、拠点・必要水量を整理し実効性を向上 ・マニュアル刷新は途中だが、机上訓練を次年度実施しケーススタディの改定を継続	6	C			
				4) 組織内での災害訓練等の定期的な実施	各災害用マニュアルを利用した災害訓練の実施(継続)									a.災害マニュアルに基づき、年一回以上の災害訓練を実施 【R7】 ・年1回以上の訓練を実施	・応急給水計画実施・作成要領を見直し、給水拠点の設定、必要用水量等を整理した、これにより実践的な応急給水の実施に向けて、次年度、机上訓練を実施する	①災害対策WG	一部実施中	2	一定	3	・訓練実施は次年度だが、計画要領見直しで拠点・水量整理し準備を強化	5	C			
				5) 他の水道事業者等との共同防災訓練の実施	日水協や企業団などの共同防災訓練への参画(継続)									a.日水協や企業団からの訓練要請への積極的参画 b.災害マニュアルに基づき、他事業体との訓練を検討 【R7】 ・日水協や他事業者との訓練に参加	・日水協の訓練に参加(5月29日) ・札幌市と緊急連絡管訓練を実施(10月27日)	①災害対策WG	ほぼ達成	4	一定	3	・日水協訓練に参加し、広域応援の手順確認と連携強化に寄与 ・札幌市と連絡管訓練を実施し、マニュアルに基づく連携訓練を具体化	7	B			

5. 環境負荷の低減

番号	項目	取り組むべき方策	ロードマップ										取り組み目標	取り組み状況	担当	取組状況評価		実施状況評価			評価合計 (/10点)	評点結果
			R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16				区分	評点 (/5点)	区分	評点 (/5点)	取組みの評価(方策の方向性どおり達成できているか)		
①	省環境 脱炭素 社会 ギト会 縮減 化 の 推 進 の た め の	1)設備更新時に省エネルギー・高効率機器の導入	更新時の省エネ・高効率機器導入(継続)										a.ポンプ等の更新時には高効率ポンプ・インバーター制御など省エネ機器を検討し、設置する b.照明等のLED化を実施 【R7】 ・R7八幡配水場・望来送水P場更新工事において、省エネ機器の設置を実施 ・更新工事実施施設において、照明機器のLED化を実施、更新施設以外も計画的にLED化を進める	・配水ポンプは既にインバーター制御方法を採用し、配水ポンプ取替え時は省エネタイプのポンプに切替を実施 ・施設の更新に合わせてLED照明に交換した	浄水	達成	5	十分	5	・更新時の省エネ・高効率機器導入については、計画的に実施 ・今後も引き続き、計画に基づき実施する	10	A
		2)関係機関との連携による再生可能エネルギーの地産地活の推進	関係機関と連携した再生可能エネルギーによる地産地活(短										a.再生可能エネルギー利用率の向上 b.二酸化炭素(CO ²)排出量の削減 【R7】 ・再生可能エネルギー利用率向上 ・CO ² 排出量削減	・契約電力の更新にあたり、コスト負担の軽減を優先し、再生可能エネルギーから通常電源に変更	④水道ビジョンPT 総務 浄水	検討中	1	一定・課題	2	・水道事業におけるカーボンニュートラルの実現は喫緊の課題であるが、経営状況が厳しいことから、当面はコストを重視する必要がある ・CO2削減は不透明であるが、引き続き排出量把握と次年度の削減策検討が課題	3	D
		持続																				
		新規																				

6. 市民とのコミュニケーションの充実

番号	項目	取り組むべき方策	ロードマップ										取り組み目標	取り組み状況	担当	取組状況評価		実施状況評価			評価合計 (/10点)	評点結果
			R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16				区分	評点 (/5点)	区分	評点 (/5点)	取組みの評価(方策の方向性どおり達成できているか)		
①	水道に関する市民との情報の共有化	1) 利用者ニーズを把握するためアンケート調査を実施	次期計画策定時の水需要調査(中期)										a.経営戦略見直しに合わせアンケートを実施 b.利用者ニーズをサービス向上に反映【R7】 ・経営戦略見直しに合わせアンケートを実施	・アンケートは未実施	④水道広報WG	未着手	0	成果無	0	・アンケートによる利用者ニーズの調査には、未着手で、実施スケジュールの検討と設問設計・分析方法を整備し施策化へつなげる必要がある	0	E
		2) ホームページ等の充実やイベントなどの参加による水道のPRの実施	HP等の内容のリニューアル検討(短期)										a. HPの充実及び他の媒体による情報発信を検討 b. イベントを利用した水道のPRなど広報活動を実施【R7】 ・HPの充実 ・イベントを利用した水道のPR	・HPの充実に向けた、他事業体HPの調査を実施 ・水道使用開始・休止届のWeb申請をリニューアルし、サービス向上を図った ・防災フェスタで災害時の取組み等をPRした	④水道広報WG	一部実施中	2	一定・課題	2	・他事業体HPの調査を実施したが、改善点の整理に至らず ・Web申請の案内掲載で利便性向上 ・防災フェスタで水道PRを実施し、来場者に災害時対応と重要性を周知	4	D
		3) 子どもたちへ水道に関する特別授業等を実施	子どもたちに向けた水道に関する特別授業や施設見学の検討(短期)										a. 児童生徒に水道を正しく理解してもらうための取り組みを検討【R7】 ・特別授業や施設見学を実施	・施設見学や水道に関する特別授業の検討、教育機関への呼びかけ等は未実施	④水道広報WG	未着手	0	不十分	1	児童生徒向け理解促進のため、特別授業・施設見学の検討や学校への呼びかけが未実施で、次年度の実施計画化が課題	1	E
		4) 災害対策に関する広報活動と市民との共同防災訓練の実施	防災に関する広報活動による市民との情報の共有(短期)										a. 防災に関する広報活動の拡充 b. 防災意識の醸成により市民との防災訓練を実施【R7】 ・防災意識醸成のための広報活動の拡充 ・災害関連マニュアルの改定作業	・災害に関する広報活動は未実施 ・市民との防災訓練実施に向け、災害関連マニュアルを改定中	①災害対策WG ④水道広報WG	一部実施中	2	不十分	1	・防災広報は未実施で進捗なし、発信媒体と内容の整理が必要 ・市民との災害訓練を目標に災害マニュアルを改定中、実施手順の具体化が課題	3	D
②	給水事故防止における安全	1) 各家庭における給水装置の適切な管理方法についてのPR	給水装置の適切な管理についての周知・啓発(短期)										a. 給水装置の正しい理解・維持管理について広報による周知を図る【R7】 ・市HPやチラシの全戸配布により周知を図る	・HPIに給水装置(水栓等)のQ&Aなど、給水装置に係る記事を掲載 ・1月の広報誌の折込ちらしに給水装置関連記事を掲載	給配水 ④水道広報WG	実施中	3	一定	3	・今後、更に効果的に周知を図れる方法を検討する必要がある ・他事業体の事例調査も必要 ・市HPへの掲載やチラシの全戸配布は今後も継続し、他の媒体を通じた周知についても検討	6	C
		2) 指定給水装置工事事業者への監督・指導の実施	指定給水装置工事事業者への監督・指導(継続)										a. 指定給水装置工事事業者の法令違反や不適切工事の防止に努める【R7】 ・不適切工事の防止に努める	・法令違反や不適切工事を行った指定給水装置工事事業者に指導を行った	給配水	実施中	3	一定・課題	2	・法令違反や不適切工事の防止のための指定給水装置工事事業者への啓発活動を検討する必要がある ・近隣の複数の市町村で指定給水装置工事事業者となっている事業者も多いことから、近隣市町村と協力も検討する必要がある	5	C